

あり組での生活も最後の1ヶ月になりました。今年度が始まった春はずり這いやはいはいをしていた子どもも今では歩いて散歩に行き、走ったりよじ登ったりして自信を持って体を動かしています。また、食事の場面では、エプロンの着脱から食事を口に運ぶまで援助を必要としていましたが、自分の好きなものからスプーンや手掴みで食べ、おかわりしたいものは指差して伝えています。外遊びの準備では自分の上着や靴はもちろん、友だちの持ち物まで覚えて渡してあげる姿も見られます。また、室内遊びではBブロックを自分で繋げて車を作ろうとしたり、複雑な形の型はめに挑戦したり、大学の森では少し高いベンチによじ登ろうとするなど、少し難しい事に挑戦しようとする姿に頼もしさと一年間の成長を感じています。

寒さが和らいでくる3月、花のつぼみや虫を見つけたり温かな風を感じたりし、絶えず与えてくれる神さまの恵みに感謝し、ひよこ組への進級を嬉しい気持ちで迎えたいと思います。



夕方、テラスで遊んでいると空に白い月が見えたのでみんなで眺めていました。すると雲で月が隠れてしまいました。『あれ?』という表情になり、月を探していると雲が動き、再び月が出てくると大喜びの子どもたち。雲に隠れては月が出てくるたびに「ま!(おつきさま)、ま!」と声を出したり指差しをしたりしている子どもたちの無邪気な姿にほっこりしました。

あつという間にひよこ組での生活も、残り1ヶ月…最初の頃は泣いて不安を表現していた子どもたちもたくさん笑ったり、好きな遊びを楽しんだりして、表情豊かに過ごす姿が見られています。また、身の回りのことを自分でしようとする姿や、「〇〇くんないてるね」「どうしたのかな」と友だちを心配する姿に、心身ともに一年間の大きな成長を感じています。保護者の方々と子どもたちの成長を喜び合えましたこと、感謝いたします。

2月はローラーを使って制作を楽しみました。自分でスモックを着てスタンバイし、大きな模造紙に絵の具が広がっていくことに驚いたり喜んだりして、思い思いに楽しんでいました。今月も引き続き絵の具に触れ、デカルコマニー(合わせ絵)という表現方法でちょうちょを表現し、壁に飾ってひよこ組に春を迎えたいと思います。

また、りす組保育室で遊ぶ機会も設けたいと考えています。友だちや保育者と好きな遊びを楽しんだり、おもちゃの場所を知ったりしながら少しずつ新しい環境に慣れて、進級を嬉しい気持ちで迎えられたいと思います。これからも子どもたちが神さまに守られる中で、心も身体も元気に成長できますようお祈りしています。



水色のブロックをコップに入れて、ペットボトルのジュースを注ぐ仕草をしていたAちゃん。保育者にコップを渡して一言。

「はいどーぞ! つめたいよ」

ブロックを氷に見立て、大人では思いつかないような素敵な発想で遊びを楽しむひよこ組の子どもたちです。

りす組での生活も残すところあと1ヶ月となりました。今、子どもたちはうさぎ組(ピンク色の帽子)になることに期待で胸をいっぱいにしています。「うさぎ組のお部屋は階段上る時、危ないから手すり持つんだよ」「そうだよ。階段危ないから抱っこじゃなくて自分で行くんだよ」と得意気に友だちと言い合っている姿がとても微笑ましいです。

これまでりす組では生活面の自立に向けて、一人ひとり「自分でやりたい」という気持ちを大切に励ましてきました。最初はやり方を伝えて、一緒にする中でも「できない」「手伝って」と言っていた姿から、毎日の繰り返しの中で「自分でする」「先生見ててね!」「ほら!!できたよ」と自信を持って見せてくれるようになってきました。今できていることも、日々の積み重ねの中で身につけてきた子どもたちの力ですね! そのことを忘れないでできていることを当たり前として捉えるのではなく、「すごいね!」「できるようになったね」と成長を感じられるように、大きくなったことを喜び合いながら1ヶ月過ごしたいと思います。



おおかみと7匹の子ヤギの絵本を読んだ後のある日の乳児園庭での出来事。ファンシーハウスの外から保育者が「トントントン 開けておくれ! お母さんだよ!」と言うと…

Aくん「お母さんじゃない おおかみでしょ!」
Bくん「だって(手が)白じゃないもん!」
Cくん「がらがら声だよ」

すっかりおおかみと7匹の子ヤギのごっこ遊びが始まり、繰り返し楽しんでいました。お話の内容もよく分かっていて、成長を感じました。